

上端は表裏両面からのキリ技法によって切断されており、下端は欠損している。表にはケズリによる整形が確認される。「高岸神門」の文字は続けて書かれているが、「高」の上には連続する文字が見られないことから、上端は原形をとどめると思われる。『出雲国風土記』には神門郡高岸郷がみえ、そこでは神亀三年（七二六）に表記を「高崖」から「高岸」に改めたとされているので、本木簡もこれ以降のものと推定できる。なお、神門郡高岸郷については、本遺跡北北西約2kmの塩冶町高西がその故地と考えられ、本遺跡は同郡日置郷の周辺にあたるのではないかとされてきた。今回報告した本簡は、古代の神門郡と郷との関係を考える上で重要な資料となろう。

（平石 充）

埋蔵文化財写真真技術研究会編

『埋文写真真研究』第六号

「特集 とぶ、つぶれる、ねむい、どうしようもない」

井本 昭

「基礎講座 文書撮影—複写—」

杉浦 秀昭

「紫外線写真撮影」

金井 杜男・三原 昇

「現場撮影における色の再現性—青いポジの原因—」

池崎 智詞

「回折現象について—画像への悪影響—」

井上 直夫

「画像データを用いた印刷の進捗と利用方法」

木村 恭也

このうち木村氏の記事は、本簡写真真を例に用いて、フォトリソデータと赤外線スチルビデオデータを印刷に利用する方法を紹介したものである。

別冊として文化財写真真集『高橋猪之介寫真集英』（B5判九五頁）が付いている。

B5判、一三五頁、カラー図版多数

定価三五〇〇円

（バックナンバー 三号三〇〇〇円、四・五号三五〇〇円）

送料 四冊まで五〇〇円、一〇冊まで一〇〇〇円、

一一冊以上は無料

申込先 〒六三〇 奈良市二条町二一九一

奈良国立文化財研究所内

埋蔵文化財写真真技術研究会

佃 幹雄 宛

TEL 〇七四二一三四—三九三二

郵便振替 〇一〇五〇—九—九九三〇

埋蔵文化財写真真技術研究会